

2010年12月21日

<プレスリリース>

「内外の化繊工業の動向（2010年第3四半期）」について

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会はこのたび、「内外の化繊工業の動向（2010年第3四半期）」をまとめました。以下はその概要です。

担当： 業務調査グループ （Tel：03-3241-2313）

概 要

(2010年第3四半期)

2010年第3四半期のわが国の景気は、引き続き持ち直しており自律的回復に向けた動きも見られたが、長期化する円高、デフレ、厳しい雇用情勢など依然として厳しい状況にあった。先行きについては、当面は弱含みの動きがみられるものの海外経済の改善や各種政策効果を背景に、企業収益の改善などを背景とした回復が期待される。

化繊景況は、アウトドアブームによる薄地高密度織物とエコカー補助金などの政策による自動車関連需要に牽引された回復がみられるが、先行き円高、原料高になど予断を許さない状況には変わらない。

国 内

- 1) 第3四半期の繊維景況は、衣料用では百貨店衣料品売上高が前年比5.8%減、チェーンストアが2.2%減と減少幅は縮小、持ち直しの動きは見られるが、消費者の節約志向、中高級品離れが続き苦戦。インテリア用は、カーテン、カーペット関連においてコントラクト向けは低調、家庭向けはマンションの発売戸数(首都圏;前年比16.7%増、近畿圏;43.6%増)、新設住宅着工件数(13.8%増)の改善は見られたが、製品輸入に押され厳しかった。カーシートはエコカー補助金効果もあり順調な荷動きとなった。資材用は、自動車関連はシートベルト・エアバッグが順調、タイヤコードもポリエステルは順調、ナイロンも回復が見られる。また建築関連は、公共投資は引き続き低調、民間投資も持ち直しているものの低水準であった。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体では前年比4.5%増、前期比横ばい、化繊は前年比30.3%増、前期比1.0%増、紡績は前年比8.3%増、前期比1.3%増と、増加幅に差はあるものの前年比、前期比ともに増加した。一方在庫指数(期末)は、繊維工業が前年比10.4%減、化繊8.4%減、紡績45.4%減といずれも減少となった。(生産、在庫とも指数ベースの比較)
- 3) 繊維品輸出は、前年の2009年第3四半期がドルベースで前年比16.3%減、円ベースで27.2%減と大きく減少したこともあり、今期はドルベースで22.9億ドル・前年比20.2%増、円ベースで1,966億円・10.4%増といずれも2桁の増加となった。形態別(ドルベース)では、繊維原料・29.3%増、糸類・42.5%増、織物類・13.5%増、二次製品・16.5%増といずれも2桁の増加となった。仕向地別では、全体の38%を占める中国は8.7億ドル・18.8%増。アセアン向けはタイ・インドネシア・マレーシア、ベトナム向け増加により3.9億ドル・23.6%増。欧州(2.6億ドル・39.4%増)、米国(1.6億ドル・27.5%

増)、香港(1.9億ドル・15.9%増)、韓国(1.0億ドル・11.7%増)などの主要国・地域向けは増加した。

4) 繊維品輸入は、ドルベースでは96.5億ドル、前年比6.3%増であったが、円ベースでは8,263億円・2.5%減となった。形態別(ドルベース)では、繊維原料は54.9%増、糸類は47.9%増、織物は27.8%増、二次製品は4.2%増といずれも増加した。仕出地別では、中国が73.9億ドル・3.7%増、全体の77%を占めている。アセアンはタイ(25.8%増)、インドネシア(29.5%増)、ベトナム(19.0%増)の増加により7.4億ドル・23.5%増。欧州は主力のイタリアが4.5%減と引き続き低迷しており6.1億ドル・0.7%減。韓国1.6億ドル(8.9%増)、米国1.4億ドル(21.5%増)であった。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	09.7-9	10.4-6	10.7-9	前年比(%)	前期比(%)
輸出	千ドル	1,902,662	2,194,899	2,287,790	20.2	4.2
計	億円	178,132	201,879	196,616	10.4	-2.6
繊維原料	千ドル	277,819	355,489	359,338	29.3	1.1
糸類	千ドル	210,896	270,698	300,445	42.5	11.0
織物類	千ドル	647,079	713,366	734,668	13.5	3.0
二次製品	千ドル	766,868	855,346	893,340	16.5	4.4
輸入	千ドル	9,074,287	7,510,796	9,645,046	6.3	28.4
計	億円	847,875	692,012	826,284	-2.5	19.4
繊維原料	千ドル	94,285	145,806	146,068	54.9	0.2
糸類	千ドル	202,762	264,177	299,923	47.9	13.5
織物類	千ドル	243,332	283,969	310,983	27.8	9.5
二次製品	千ドル	8,528,594	6,816,846	8,888,070	4.2	30.4
衣類	千ドル	7,267,607	5,685,495	7,620,078	4.8	34.0
輸出レート	円/ドル	93.6	92.0	85.9	-8.2	-6.6
輸入レート	円/ドル	93.4	92.1	85.7	-8.3	-7.0

(出所)財務省

5) 化繊生産は256,814ト、前年比21.1%増、2008年第3四半期の96%の水準にまで回復した。セルロース繊維は40,545ト・4.3%増。合繊は216,269ト・24.9%増であった。期末在庫は92,182ト、セルロース繊維は前年比・前期比ともに減少したが、合繊は前年比減、前期比増となった。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は15.7万ト・前年比15.7%増。レーヨンSは円高の影響により60%を占める米国向けが30%減と大きく減少したことから、全体でも30.9%減(2,832ト)となった。ナイロンF21.6%増、ポリエステルF3.1%増、アクリルS13.9%増と増加したが、ポリエステルSは0.5%減とわずかだが減少した。化繊織物(面積ベース)は7.2%増の1.6億m²。また化繊不織布(重量ベース)は5.6%増と

堅調に推移している。化繊輸入（繊維原料～二次製品）は34.7万トン・8.7%増。繊維原料（1.5万トン・16.8%増）、糸類（4.8万トン・38.0%増）、織物類（1.3億㎡・21.9%増）、二次製品（26.1万トン・3.5%増、うち衣類14.4万トン・2.5%増減）いずれも前年比増加した。

化学繊維の主要指標

項目	単位	09.7-9	10.4-6	10.7-9	前年比(%)	前期比(%)
化繊生産	千トン	212	257	257	21.1	0.0
セルロース	"	39	45	40	4.3	-9.1
合 織	"	173	212	216	24.9	1.9
化繊在庫	"	103	90	92	-10.5	3.0
セルロース	"	18	17	15	-20.0	-12.0
合 織	"	85	73	77	-8.4	6.4
化繊輸出	千トン	135	158	156	15.6	-1.3
	100万ドル	1,158	1,369	1,414	22.1	3.3
	億円	1,084	1,259	1,215	12.1	-3.5
化繊輸入	千トン	319	272	347	8.7	27.4
	100万ドル	3,980	2,779	4,361	9.6	56.9
	億円	3,715	2,560	3,695	-0.5	44.3

（出所）経済産業省、財務省

（注）在庫は生産者在庫で各期末

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

ポリエステルF：生産は49,427トン・前年比17.5%増。織物生産は9,398万㎡・5.1%増と9期振りに前年を上回った。衣料用は、婦人アウター向けで消費者の「買い控え疲れ」からここに来てまだ本格的ではないが荷動きが出始めている。また着易さやストレッチ性などからニット生地使いが堅調である。スポーツ関係では、ダウンジャケット向けやアウトドア向けがニット生地使いやストレッチ機能などバリューエーションの拡がりもあり堅調。コンプレッションウェア向けは新しいマーケットとして定着しつつある。非衣料用は、タイヤコード向けは好調。カーシート・シートベルト向けは新車用需要のため、期中から流通段階での在庫圧縮の動きが見られ前年を若干下回った。カーテン向けはオフシーズンにより荷動き低調。フィラメント輸出は6,296トン・3.1%増、輸入は2万6,614トン・50.6%の大幅増。

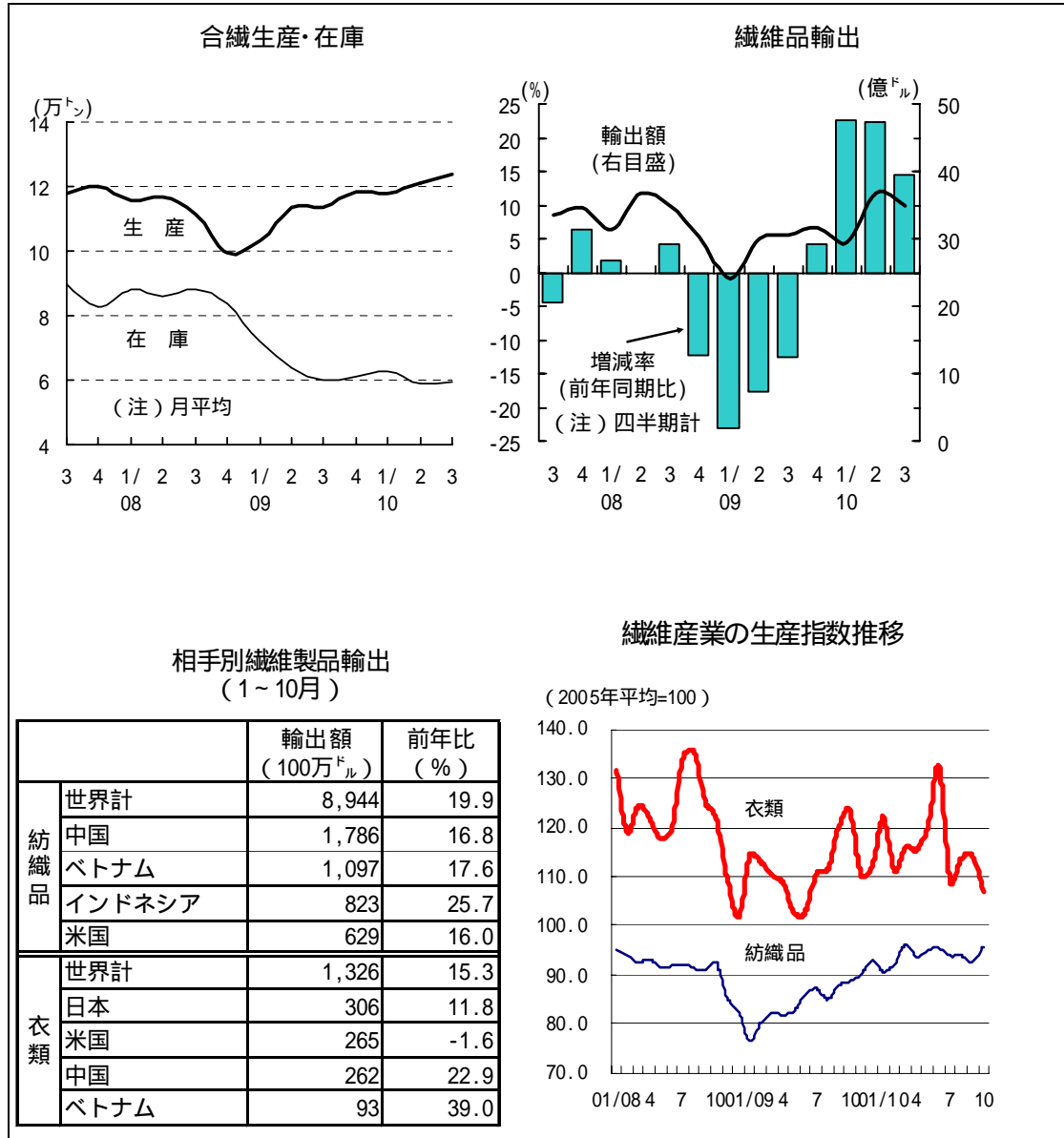
ポリエステルS：生産は40,871トン、前年比4.3%増。紡績用は、主力の綿混はワーキングユニフォーム向けで動きが見られ堅調。ウール混はユニフォーム関係を中心に安定。純糸は資材向けが堅調に推移、中東向け間輸は動きが見られない。製綿用は、寝具品の販売不振もあり海外原綿の使用が一段と進んでいる。9月からの冬物シーズンに向けて荷動きは鈍い。不織布用は、衛材が中国における日本製紙オムツ人気により製品輸出が増加するなど安定。生活資材はパップ剤では市販向けが順調、ウェットティッシュは不振。車両資材は横ばい。産業資材ではフィルター向けは堅調だが土木関係は低調。湿式不織布は一服。水

処理関連は輸出が多く円高が懸念される。ステーブル輸出は0.5%減の9,267ト。タイ、米
国は増加したが、インドネシア、中国、欧州は減少。一方輸入は6.4%増の7,095ト。韓国
は微減、中国、タイは増加。

ナイロンF：生産は24,614ト・前年比32.1%減。織物生産は2,984万m²、17.9%増と2
期連続して前年を上回った。衣料用は、レグ関連ではレギンス・トレンカ向けは堅調、
ここに来てポリエステルやアクリルなど素材の多様化の動きが見られる。レギュラーパ
ンストは引き続き低迷。ハイテンションニットは、中国内需向け輸出は堅調。国内向けは
プリント物中心に好調。スポーツ関係では、欧米のアウトドアブームにより高密度織物
輸出が好調。非衣料用は、タイヤコード向けではキャッププライ用は順調、オフロード車向
けのバイアスタイヤも回復。エアバッグ向けはエコカー補助金終了前の駆け込み需要により順調。
カーペット向けは、タイルは新規物件の乏しい中PPへの代替が進み苦戦。自動車用マットは
回復しているが、高級車向けが主力のためエコカー補助金の恩恵が小さかった。フィラメン
ト輸出は5,405ト・21.6%増。タイやフィリピン向けのエアバッグ用が好調。輸入は6,721
ト・43.9%増。タイヤコード用強力糸やその他車両用、衣料用定番糸が大幅増。台湾1,482
ト、中国1,010ト、ドイツ812ト。

アクリルS：生産は36,263ト・前年比4.4%増と、5期連続前年を上回った。紡績糸生産
は2,795ト・7.9%増と3期連続前年を上回った。国内需要は保温肌着の販売見通しが1億
枚を突破、これにより投入量も好調に推移。一方、ここに来て飽和感から慎重な見方も出
ている。セーター向けは不振、薄手のカーディガン向けはクーラー対策に着用されるなど
堅調。靴下関係ではレギンス・トレンカの秋冬用として新たな需要が出てきた。建寝装用
途は毛布向けがポリエステル製中国品に押され大苦戦。カーペット向けも低調。ステー
ブル輸出は、最大仕向地の中国は18,210ト・9.4%増と堅調。日本品はフェイクファー向け
が安定しており、最近では椅子張りなどのホームテキスタイル用やカーシートなど自動車
内装材も増加している。富裕層向けの中国の有力インナーアパレルと共同でマイクロファ
イバー使いの高級インナーの取組みが進んでいる。インドネシアは3,049ト・2.8%減、イ
ランは1,484ト・9.1%減、アフリカ諸国や米国は好調が続く。

7) 韓国

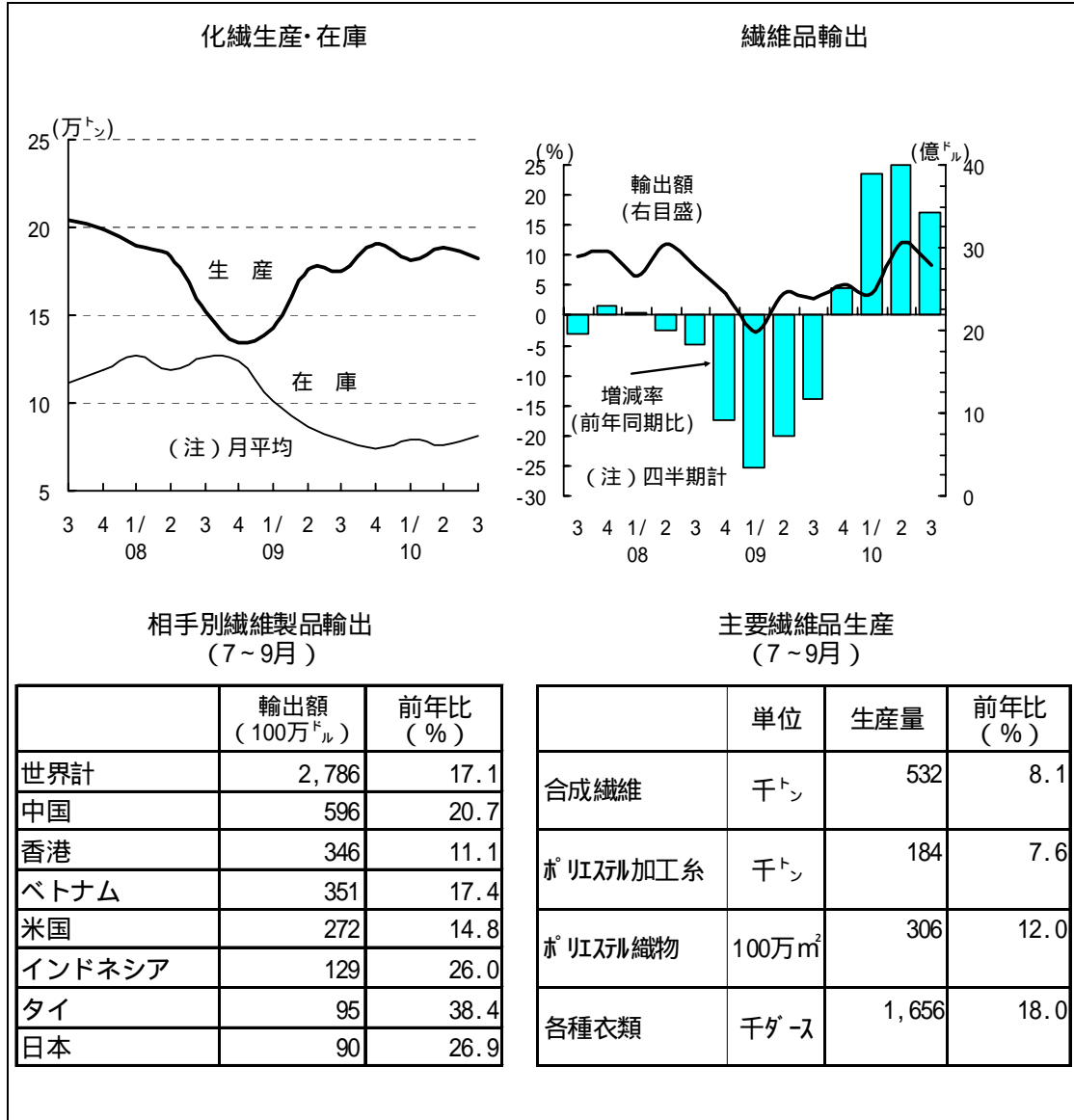


合繊生産、繊維品輸出とも伸び率は鈍化しているものの、回復の兆しが見られる。合繊生産（7-9月、以下同様）は前年同期比9.3%増の37.2万ト、4期連続の増産。また在庫調整も進む。

繊維品輸出は同14.3%増の35.0億ドル、4期連続で前年実績を上回る。相手別では中国、アセアン向けが好調。EUに続き、2010年11月に米国とのFTAが妥結、2011年中に両国・地域とのFTA発効の見通しとなり、輸出の拡大が期待されている。

2010年10月の紡織品の生産指数は前年同月比8ポイント改善しているが、衣類は14ポイント下落している。

8) 台湾



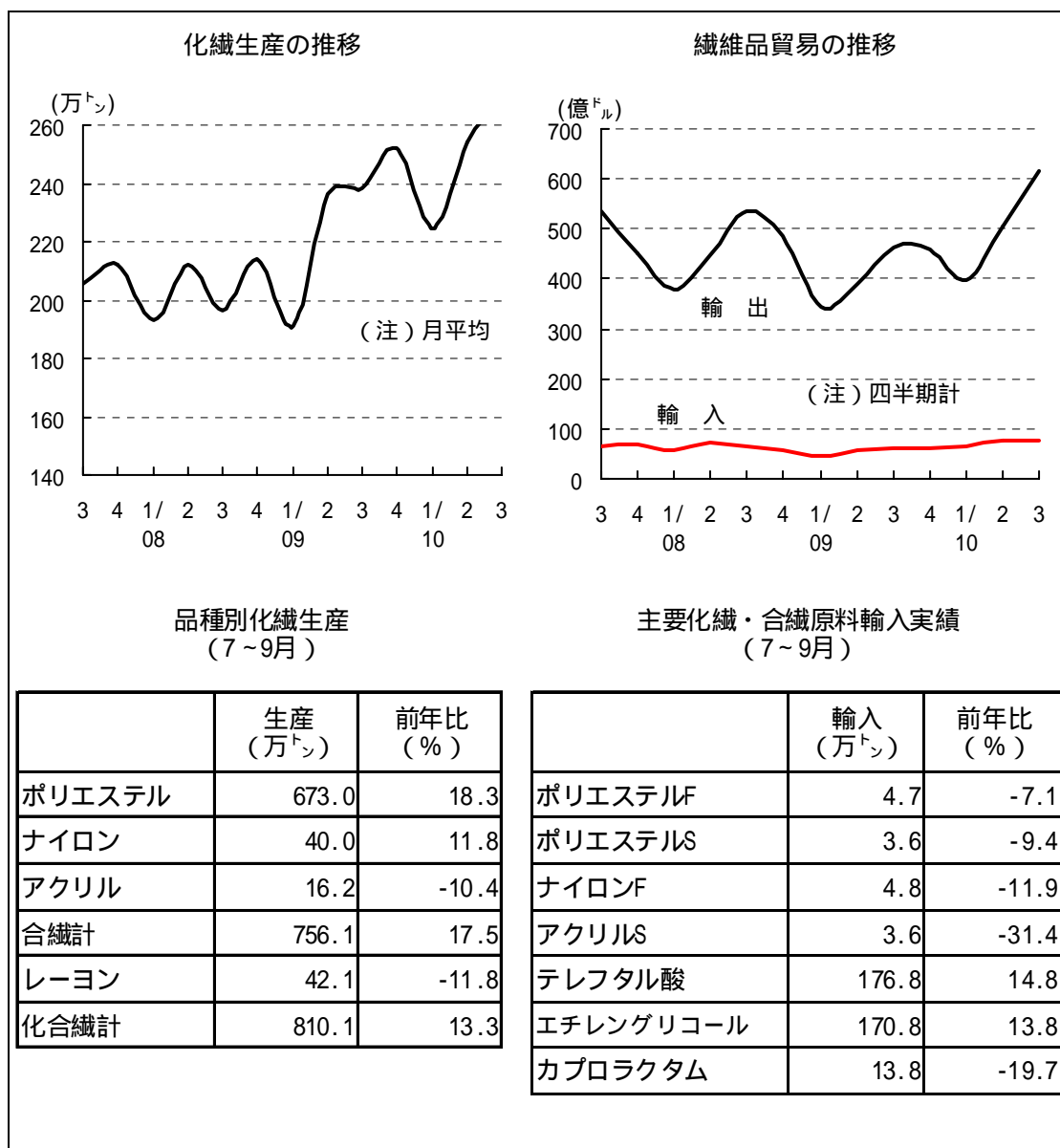
合繊生産、繊維品輸出ともその伸び率は鈍化しているものの持ち直している。

化合繊生産(7-9月、以下同様)は前年同期比4.1%増の54.8万トン、5期連続の増産。ナイロンF、ポリエステルFを中心に回復。

繊維品輸出は同17.1%増の27.9億ドル、4期連続で前年実績を上回る。主力の中国向けを中心にいずれの仕向地も大幅増。中国向けはECFA(两岸経済協力枠組協議)の発効で2011年1月より関税が撤廃され、更なる輸出拡大が期待されている。

主要繊維品の生産は、ポリエステル加工系は7.6%増であったが、ポリエステル織物、衣類はそれぞれ同12.0%増、13.4%増といずれも2桁の増加となった。

9) 中国



化繊生産、繊維品輸出、内需とも順調に拡大している。

繊維品輸出(7-9月、以下同様)は前年同期比32.5%増の616億ドル、3期連続で前年実績を上回った。2010年の繊維品輸出は、2,000億ドルを突破し過去最高となる見込み。一方、繊維品輸入も同22.2%増の77億ドルとなった。

化繊生産は同13.3%増の810万吨、主力のポリエステルは18.3%増の673万吨、ナイロンは11.8%増の40万吨と増産も、アクリルは10.4%減の16万吨となった。ポリエステルの増産は、綿花価格の高騰によって、ポリエステル需要が急拡大していることも背景にあるとみられる。

主要化繊および合繊原料の輸入は、ポリエステルは国内生産の増加もあってF・7.1%減、S・9.4%減となった。一方、合繊原料は、ポリエステル原料のテレフタル酸、エチレングリコールは増加したが、ナイロン原料のカプロラクタムは減少した。

相手別繊維製品輸出 (1~9月)			繊維業界の主要指標 (1~8月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	1,537.8	23.3	企業数	万社	5.4	-
アジア	633.4	16.8	赤字企業数	万社	0.8	-16.9
香港	110.3	8.0	主要業務収入	億元	28,235	26.5
日本	164.2	2.0	利潤総額	億元	1,286	52.4
韓国	38.1	82.2	工業総生産額	億元	29,253	25.6
アセアン	102.1	38.2	就業人数	万人	1,088	1.9
EU	339.9	22.0	繊維産業実際投資	億元	2,379	26.4
米国	266.4	30.3	うち化繊産業	億元	237	50.9

全国主要大型小売店の販売額 (1~9月)				繊維関連物価指数 (2010年10月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同月比 (%)
商品売上総額	億元	46,663	20.5	企業物価指数・衣類/帽子/靴	-1.3
うち衣類	億元	10,241	23.2	企業物価指数・紡織品	0.5
婦人服	万点	9,810	14.4	消費者物価指数・衣類	-1.3

2010年1-9月の相手別繊維品輸出をみると、EU、米国向けはそれぞれ前年同期比22.0%増、30.3%増と前年の大幅減から、一転増加となった。日本向けは2.0%の微増、アセアン向けは38.2%の大幅増となった。

1-8月の繊維産業の業績、投資に関する主要指標をみると、好調な内需もあり、顕著な回復傾向を示している。主要業務収入はぜんねん同期比26.5%増、利益総額は52.4%増となった。繊維産業の実際完成投資額は26.4%増、うち化繊産業は50.9%増となった。繊維産業の衣料用内需は好調に推移している。1-9月の衣類売上(主要大型小売店)高は前年同期比23.2%増の1.04兆元。衣類物価指数は、原料価格の高騰にもかかわらず、国内市場の競争激化もあり低下傾向が続いている。

J C F A

【参考】

合繊4品種需要実績

・ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2010年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	21,516	105.6	111.0
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	49,924	103.2	124.5
	計	71,440 (26,613)	103.9 (105.4)	120.1 (150.6)
輸出 (原糸、加工糸)		4,389	103.0	93.6
需要計		75,829	103.9	118.1
在庫		17,983	107.7	85.5

(注)国内需要の()内数値は輸入量

・ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2010年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	10,348	100.6	119.0
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,576	101.5	121.8
	計	26,924 (6,720)	101.2 (97.4)	120.7 (143.9)
輸出 (原糸、加工糸)		3,445	99.9	112.4
需要計		30,369	101.0	119.7
在庫		9,855	111.0	81.8

(注)国内需要の()内数値は輸入量

・ポリエステルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2010年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	6,053	139.1	113.7
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	31,550	100.4	97.8
	計	37,602 (7,095)	108.0 (119.6)	103.3 (106.4)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		7,079	88.3	87.0
需要計		44,680	104.3	100.3
在庫		23,022	104.8	88.9

(注)国内需要の()内数値は輸入量

・アクリルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2010年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	5,803	85.2	154.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	2,596	77.1	97.9
	計	8,399 (576)	82.5 (138.1)	130.9 (256.0)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		29,661	106.1	104.4
需要計		38,060	99.8	109.3
在庫		8,117	103.5	76.8

(注)国内需要の()内数値は輸入量